

地域貢献プログラムにおける質保証の検討

Consideration of quality assurance in community contribution program

川田 博美
Hiromi KAWADA

名古屋女子大学短期大学部
College of Nagoya Women's University

あらまし：短大生を対象とした「協働型サービスラーニング」の手法の導入による「社会人基礎力」育成のためのプログラムを2013年度より学科単位で必修履修として展開してきた。「協働型サービスラーニング」の多くが、「学内での学び」を基にして、学生の「自発性」と「ボランティア精神」による「学外での学び」を保証する取り組みであるが、本学科のプログラムの特徴は、学外での活動における協働型サービスラーニングの実践ではなく、それを学内で主催実施するイベントにより実践している点である。履修者全員に、年度ごとに実践の場を継続して提供できる点に意義があり、イベント実施やプログラムのノウハウなどを学内に蓄積することができる。しかし、学科全体を対象とするため、1つのイベントでは収容しきれず、複数のテーマに分散させることを目的として、「社会人基礎力」の項目によるプロジェクトの「選択パターン」を設定したうえで運用してきた。社会人基礎力の各テーマに基づいた選択パターンのうち、特に「チームで働く力」を養うプロジェクトの内容に基づいた質保証のためにルーブリックを検討した。

キーワード：短大教育、質保証、ルーブリック、地域貢献プログラム、社会人基礎力

1. はじめに

平成16年度から始まった第三者評価制度により、大学は文部科学大臣の認証を受けた機関（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けることが義務付けられたが、私立短期大学のほとんどが評価を受ける短期大学基準協会の学習成果に関する評価基準では、基準Ⅰとして「建学の精神と教育の効果」を基準Ⅱとして「教育課程と学生支援」を定め、それぞれ次の項目によりなる⁽¹⁾。

基準Ⅰ：教育の効果、学習成果、教育の質の保証。

基準Ⅱ：学習成果の査定（アセスメント）。

特に教育の質の保証の評価基準の詳細は、学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有することとし、それは、

(1) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果に具体性がある。

(2) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果は達成可能である。

(3) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果は一定期間内で達成可能である。

(4) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果に実際の価値がある。

(5) 学科・専攻課程の教育課程の学習成果は測定可能である。
ことにより査定される。

本学科では本来の教育プログラムに資格取得、地域貢献などのプログラムを加えてさらなる特徴づけを展開している^{(2)～(9)}。なかでも学科所属の全教員により3つのパターンで展開する地域貢献プログラムでも質保証は求められ、目標とする社会人基礎力の育成に基づく学習成果や評価基準を検討する必要がある。

2. 「春待ち小町プロジェクト」で身に付ける『チームで働く力』

地域貢献プログラムのうち、「春待ち小町プロジェクト」で習得を目指す社会人基礎力の「チームで働く力」（チームワーク）（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）は、職場や地域社会等では、仕事の専門化や細分化が進展しており、個人として、また組織としての付加価値を創り出すためには、多様な人との協働が求められ、自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なるメンバーも尊重した上で目標に向けともに協力することが必要である、ということから、次の6つの能力要素が設定された⁽⁸⁾。

(1)「発信力」は、自分の意見をわかりやすく伝える力で、自分の意見を整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える能力である。

(2)「傾聴力」は、相手の意見を丁寧に聴く力で、相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す能力である。

(3)「柔軟性」は、意見の違いや立場の違いを理解する力で、自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する能力である。

(4)「状況把握力」は、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力で、チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する能力である。

(5)「規律性」は、社会のルールや人との約束を守る力で、状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する能力である。

(6)「ストレスコントロール力」は、ストレスの発生源に対応する力で、ストレスを感じるがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する能力である。

3. 「地域貢献演習」のルーブリック

地域貢献プログラムの質保証の目安として「地域貢献演習」の到達目標達成度評価表(ルーブリック)を作成した。それは次の内容である。

領域1 地域貢献実務の知識・スキル・態度と実務実践力の領域

■地域貢献の理解

①地域貢献とは何かを理解し、地域貢献の様々な活動と連携して捉えることができる。

②地域貢献活動のプロセスの中で必要な倫理や法規に沿った基本活動を理解している。

■地域貢献活動での情報活用スキル

③学内のルールや情報活用マナーに従って情報通信環境を活用して情報収集・発信ができる。

④パソコンによるデータの加工、レポート作成、資料作成ができる。

■地域貢献実務実践

⑤地域貢献活動の意義と内容、取組手順(PDCA)を個人活動および協働活動で実践するための基本知識と実践方法を理解している。

⑥地域貢献活動で必要な話し方・言葉遣い・応対、メモ・報告・連絡・相談・ビジネス文書作成・記録・保存・廃棄などの一連の実務を実践できる。

領域2 地域貢献活動を支える学修の基礎能力と教養の領域

■働く基礎能力

⑦地域貢献の学修に、基礎能力(基礎知識・理解力・考察力・表現方法など)を活かした活動ができる。

⑧正課内外の学修活動で協働意識を持って行動し、成果を振り返り、改善点を明確にできる。

■社会と自分を知る力

⑨市民社会や組織の一員としての自覚をもって現実を理解し、問題を誠実に調べ、省察し、分析できる。

⑩他者への思いやりや責任感をもって学修課題を議論し、仲間とともに課題解決に向けた活動を行うことができる。

領域3 総合的課題解決と学修継続力の領域

■実務実践力

⑪ビジネス実務の基礎知識・スキルを活用する総合的演習を通して創意工夫をして結果を出す活動の価値に気づくことができる。

⑫実践学修における失敗・活動低下・崩壊の兆しなどに対応し、多様な人と関わる活動に取り組んでいる。

■実践学修に取り組む力

⑬大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果(知識・スキル・態度)を総合的実践の場で活用することができる。

⑭学修した地域貢献の基礎知識・スキルを深める方法を活かし、社会変化をふまえて学びを継続する価値に気づいている。

この内容に基づきこのテーマを担当する教員が所属学生(31名)を評価する。

4. おわりに

「地域貢献演習」で選択可能な3つのプロジェクトは①前に踏み出す力(アクション)を育むことを目標とする「セルフ・セレクト・プロジェクト」(地域貢献活動参加型サービスラーニング)②考え抜く力(シンキング)を育むことを目標とする「オリジナル・プランニング・プロジェクト」(教員協働型サービスラーニング)③チームで働く力(チームワーク)を育むことを目標とする「春待ち小町プロジェクト」(地域団体協働型サービスラーニング)である。

今回設定したルーブリックは、そのうち「③チームで働く力を育むプロジェクト」での構成をもとにしつつ、9つのテーマで展開する②考え抜く力(シンキング)を育むことを目標とする「オリジナル・プランニング・プロジェクト」(教員協働型サービスラーニング)にも適用可能なものを目指した。③のテーマを含めた合計11のテーマは、内容が異なっており、その中で共通したルーブリックにするためにさらに精度を上げなければならない。さらに目標として育成する「社会人基礎力」が異なるため、こうした共通のルーブリックに加えて目標とする社会人基礎力の各項目に応じたルーブリックの設定も必要であり、今後の課題と言える。

参考文献

- (1) 文部科学省(2015):『大学教育の質保証に関する参考資料』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/_icsFiles/afiefieldfile/2015/12/25/1365312_10.pdf
- (2) 川田博美(2013):“協働型サービスラーニングにより「社会人基礎力」養成をめざす教科における「選択パターン」の導入”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第59号
- (3) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2014):“「社会人基礎力」の育成を目的とする教科『地域貢献演習』の展開”、日本教育情報学会 第30回年会演説文集
- (4) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2014):“短大における街なかキャンパスでのアクティブラーニングの試み”、教育システム情報学会第39回全国大会講演論文集
- (5) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2015):“「社会人基礎力」育成のための「協働型サービスラーニング」の実践”、教育システム情報学会第40回全国大会講演論文集
- (6) 川田博美(2016):“地域団体と連携して行う街なかキャンパスでの評価”、教育システム情報学会第41回全国大会講演論文集
- (7) 川田博美(2016):“アクティブ・ラーニングプログラムとして実践する地域貢献演習の展開”、教育システム情報学会第41回全国大会講演論文集
- (8) 川田博美(2017):“地域連携型授業でめざす社会人基礎力育成”、教育システム情報学会第42回全国大会講演論文集
- (9) 川田博美(2017):“実務教育プログラムにおける質保証の検討”、教育システム情報学会第42回全国大会講演論文集